



一般質問..... P 2 ~ P 5  
9月定例会から

町議会審議結果..... P 5 ~ P 7  
6月・8月臨時会、9月定例会

一般質問のその後を追跡... P 8

町長からの行政報告..... P 9

委員会等の動き..... P 10 ~ P 11

議員研修報告..... P 12 ~ P 15

議会傍聴アンケート  
結果報告..... P 16

発行/上川町議会 編集/議会広報特別委員会



「健康と長寿を祝う会」  
(9月11日、かみんぐホール)



# 一般質問

平成24年第7回町議会（定例3）の一般質問は、9月19日に行われ、4議員が町長等の考え方を問いました。

## 層雲峡日赤分院跡地活用について

久米 議員



(久米得正議員)

今年も大雪山国立公園一帯に紅葉の季節が訪れてきました。この紅葉を見る為に多くの観光客の皆さまが層雲峡に足を運んでくださるものと思います。ご承知のとおり日赤分院が閉鎖されてから相当の年月が経過

しております。建物も損傷が激しく、紅葉谷散策の方々に無残な姿を見せつけ、折角の素晴らしい紅葉の景観にダメージを与えております。建物の整理や、この区域の再整備計画に一日も早く着手すべきであると考えます。町長のお考えを伺います。

### 町長答弁

売却に係る交渉がまとまり次第、早期解決を図ってまいります。

日赤分院の土地建物につきましては、平成9年11月末の閉鎖後、平成17年3月に旭川赤十字病院から町への売却の打診がありまし

た。町は温泉保全管理の観点から、旭川赤十字病院、日本赤十字社と10回にわたって売却に係る交渉を実施し、具体的な金額の提示まで行われてきたところであります。

しかしながら、旭川赤十字病院改築計画の具体化したことに伴い、5年間にわたり交渉が中断せざるを得ませんでした。その後、昨年8月に改めて日赤側から交渉申し入れがあり、現状の課題について確認し、本年7月には日赤担当者立ち会いにより、現地におきまして建物内部調査を実施してきたところであります。この調査は、今後の交渉に必要な既存建物の取り壊

合ってきたのか、上川町の現在の状況と上川町としての節電目標値及び、それが達成できたときの電気使用量の節電率と電気料金の節約金額を教えてください。と思います。

### 町長答弁

新たにLEDの導入なども積極的に検討を行います。



(佐藤芳治町長)

上川総合振興局管内では、6月5日に「上川管内地域電力需給連絡会」を開催し、国、北電からの節電要請、道の節電の取り組み等について説明を受け、7月23日から始まる節電期間に向けた情報共有を図り、節電対策や計画停電に対する準備を進めることとなりました。その後、7月19日

には2回目の連絡会を開催し、計画停電の実施手順、計画停電対象地域等が示され、上川町においては層雲峡地区の一部が対象となることが明らかとなり、各事業者による対策が講じられてきたところであります。計画停電は電力利用者が節電により回避できることが可能でありますことから、各家庭における住民一人一人が節電意識を持ち取り組むことが重要であります。各事業所におきましてはこれまで実施してきている対策に更なる検討を加え、きめの細やかな取り組みが電力事業者から要請されている状況にあります。このようなことから、上川町としては公共施設関係の節電対策を各課連絡会議により検討を行い、照明の節電、パソコンの省電力設定活用など現状で可能なことについて実施をしているところであり、役場庁舎の実績では昨年度4月からの4ヶ月間と今年度の同時期

の電力消費量を比較しますと、4・7%の効果が出ております。また、道路照明につきましても水銀灯から省エネにつながるナトリウム灯に順次替えることとしており、新たにLEDの導入なども積極的に検討を行い、公共側が担う節電対策は継続した取り組みをしていくこととしております。

かみんぐホール前の街灯



比較では率にして一般家庭では6・9%、事業所については1・1%の減少率となつていていることとあります。北海道は冬期間における計画停電実施の可能性がより高まりますことから、継続した節電対策を住民一人丸となった取り組みとして実施していきたい、と思っております。

## 上川町の旅費規程について

森本 議員

上川町における公務出張時の旅費は、昨年度1年間で総額いくらくらいになっていたでしょうか。また、本年度としてはいくらくらいの予算が盛り込まれているのでしょうか。

上川町の旅費規程によると、出張旅費の支出は定額支給となつているが、今のご時勢、厳しい財政運営を

## 上川町の節電対策について

森本 議員



(森本恭弘議員)

昨年の福島原子力発電所の災害により、国のエネルギー政策は大きな転換期を迎えています。このことから国及び電力業者から節電のお願いなどが多数出ている状況です。

本年5月には、北海道において「北海道地域電力需給連絡会」の設置、6月には、北海道知事から道民へ向けて、「一人ひとりが節電を」のメッセージも出ているところであります。

わが町上川町は、経済産業省や北海道から要請の出していた7%削減とどう向き



(旧日赤分院)

強いられている中で、ひとつの改善策として実費支給に切り替える時期に来ているのではないかと考えますが、町長はどのようにお考えでしょうか。町の予算全体から見ると、わずかな一部分かもしれませんが、少しづつの積み重ねが大切であり、住民の理解も得られる方向に進むと思われませんが、お考えをお聞かせ下さい。

### 町長答弁

今後も定額旅費により対応していきたいと考えている



おります。

2点目の旅費規程の定額支給を実費支給に切り替える時期では、とのことにつきましても、道外旅費は現在、宿泊料と運賃を含めたパック料金による積算が可能である出張は、パック料金対応を実施しているところであります。道内旅費につきましても、現状の旅費が実態と大きくかけ離れていないことや、効率的な旅費の積算が可能でもあり、今後も定額旅費により対応していきたいと考えています。



上川高校

会が近隣中学校を2度にわたり訪問し、通学費等補助制度をはじめ上川高校の教育成果を説明し、さらに、地元上川中学校の生徒保護者に対しても、2年生時から上川高校の先生による進路説明会を開催しているところがございます。

町といたしましては、高一貫教育の推進に係る事業費及び通学等補助金を継続するとともに、上川高校が更なる魅力ある学校づくりを推進していただく中で、入学者の確保を図り上川高校の存続を図って参りたいと考えております。

また、教育水準の維持向上を図る高校の在り方につきましても、広大な北海道の実情にそぐわず、地域の教育や文化だけでなく、経済や産業など地域の衰退につながることから、機会あることに町長からも北海道教育委員会などに対し、見直しを求める意見を申し上げておりますので、ご理解願いたいと存じます。

ところでありますので、どうぞご理解をお願いいたします。

### 上川高校の維持と道教委の「指針」について

安部 議員



(安部逸雄議員)

上川高校は、全国でも一早く、中高一貫校の指定を受け、今日迄2間口を確保する事で、地元高校の通学を維持する事が出来ました。一方道は、財政危機の中で、2006年度に「新たな高校教育に対する指針」を出し、1学年4クラスを基準として地方の高校の廃校を加速してきました。都市の学区を拡大し、結果「地方から都市へ都市から排除された生徒は、遠距

### 上川町森林・林業再生プランに基づく林業の振興について

溝口 議員



(溝口久男議員)

森林面積が94%を占めるわが町にとって森林資源の最大限有効に活用することが森林・林業再生に必要な事と考えます。

町では間伐材や林地残材の有効活用について関係団体と連携し取り組んでいくようですけれども状況はどうかお伺いしたいと思

また、隣町、愛別町協和温泉では間伐材などをチップ状に加工し燃料に使うボイラーを設置されましたが、再生可能エネルギーなどの利用で二酸化炭素(CO

離通学や定時制へ」の選択を余儀なくされています。

上川高校も例外なく、1学年40人を切った時あるいは、進学率50%を切った時に閉校の危機となります。そこで

今後どのような努力を模索していくのか。道の指針の撤回を求めている市町村連携は考えとしてあるのか。この2点について伺いたいと思

### 教育長答弁



(原 邦男教育長)

北海道立高校の配置は北海道教育委員会が示す「新たな高校教育に関する指針」により、基本的考えが

O2) 排出削減が叫ばれる今日、上川町でも公共施設等に導入の考えはないか。町長のお答えをお伺いしたいと思

### 町長答弁

公共施設への木質バイオマスの利用について、調査研究をし、実用化に向けて進めたい

ご承知のとおり本プランは、「林業のまち」から「森林のまち」への再生をテーマとし、平成22年2月に策定をし、この間、6つの具体的プランに基づき推進をしていくところであり

今、再生可能エネルギーの推進につきましては、上川町のみならず国をあげての重要な課題であり、特に本町の特性を活かした、間伐材や林地残材の有効活用につきましても、昨年度、

示されており、上川高校が指定されております連携型中高一貫教育校において、第1学年全体の在籍数が40人以下となり、その後も生徒数の増が見込まれない場合には、再編も含め今後の在り方が検討されることとなっております。

地元高校の存続は、上川町として教育の推進及び地域活性化には欠かすことのできないものであります。が、現状としては上川高校の平成24年4月入学者数は48人と、辛うじて2間口を確保しているものの、厳しい状況にあります。

上川高校の教育の特徴は大きく4点あり、その1点目は一人一人に対応しよくわかる授業として、習熟度別授業、少人数授業やT・T(チームティーチング)は、複数の教師が協力して授業を行う指導方法)などでの理解度や進路希望に応じた学習。

2点目は充実した体験活動と楽しい学校生活とし

て、総合的な学習の時間「大雪基礎」を中心に、豊富な体験活動の実施、ボランティア活動や小中学校との交流で豊かな心の育成。

3点目はキャリア教育の充実として、センター試験から就職試験まで、幅広く対応した教育課程、進路意識を高めるインターンシップや各種検定取得の支援。

4点目は全国に誇れる優れた教育の実践として、グロープ委員会による石狩川の水质に関する研究などの教育を実践しております。これらの実践により平成23年度卒業生の就職内定率96%、進学決定率97%、うち、国立大学合格者4名や英検、数検などの難関検定に多数の合格者を輩出、陸上競技での全国大会出場、グロープ委員会の学会での発表など上川高校の教育成果が表れているところでござ

います。上川高校存続に向け、入学者の確保が重要であることから上川高校と教育委員

報告が出されたところであり

この結果を受けまして、今年度においては、林野庁の補助事業により、公共施設への木質バイオマスの利用について、調査研究をし、さらに実用化に向けて進めて行きたいと考えておりますので、ご理解をお願いいたします。

## 町議会

### 審議結果

### 6月臨時会

平成24年第5回町議会(臨時3)は6月26日に開催され、所管事務調査報告など報告4件のほか、契約の締結など3件を審議し、同日閉会しました。主な内容については次のとおりです。

### 可決議案等

### 契約の締結

旭ヶ丘フォレストガーデン整備工事(土木)及び(造園)請負契約2件の締結については、工事予定価格が5000万円以上となることから、条例により議会の議決を必要とするもの。

全員賛成で可決



議会広報は、町ホームページでもご覧いただけます。

## 議会・議会広報

に対して、みなさまのご意見をお寄せください。

役場議会事務局へ  
電話 2 - 1211 (内線 300、301)



## 議員派遣

議員派遣については、8月23日札幌市で開催される全道議会広報研修会に議会広報特別委員会委員の参加、及び8月28、29日に比布町で開催される中央部5町議会議員研修会への全議員の参加について議会の議決を求めるもの。

異議なしで決定

## 8月臨時会

平成24年第6回町議会（臨時4）は8月6日に開催され、所管事務調査報告のほか、契約の締結や平成24年度一般会計予算など4件を審議し、同日閉会しました。主な内容については次のとおりです。

### 可決議案等

#### 契約締結

上川町地域資源活用交流促進施設整備（レストラン棟建築主体）工事請負契約

の締結については、工事予定価格が5000万円以上となることから、条例により議会の議決を必要とするもの。

賛成多数で可決



議場風景

#### 補正予算

一般会計補正予算（第3号）は、歳出において（仮称）映画製作応援実行委員会交付金、白水沢地区地熱開発研究協議会交付金、幼稚園就園奨励費補助金の増、その他関係する旅費等の補正で総額5

45万4千円の補正。歳入においては、幼稚園奨励費補助金（国庫補助）、繰越金の補正で収支の調整を図るもの。

債務負担行為の補正については、北海道市町村備荒資金組合から譲り受けるブルドーザ代金で、期間は28年度までとするもの。

町立診療所事業特別会計・介護老人保健施設事業特別会計両補正予算（第1号）については、医師が1名増員になったことに伴い、北海道家庭医療学センターとの診療業務委託料を増額補正するもの。負担割合は、診療所9割・保健施設1割で、歳入においては、繰越金で収支の調整を図るもの。

全員賛成で可決

## 9月定例会

平成24年第7回上川町議会（定例3）は9月19日に開会され会期を3日間と決

を取り崩し財源補てんするもの。

賛成多数で可決

#### 決算認定

委員会審査報告については、決算審査特別委員長から平成23年度一般会計ほか8会計の決算認定について報告

全員賛成で認定

#### 人事案件

教育委員会委員の任命については、現委員の辻拓氏と原邦男氏が9月30日をもって任期満了となり、再任が決定。

賛成多数で同意



（原 邦男 氏）

（辻 拓 氏）

# 決算審査特別委員会審議結果

《決算審議で質疑応答がなされた中の総括質問の一部を紹介します。》

質 問	答 弁
監査から財源の硬直化を指摘されていることについて、今年より地方交付税が特例的に3年間の時限措置で増額交付されているが、早期に柔軟な形にもっていくようなことが理事者側の責務だろうと思う。今後の見通しについて聞きたい。	政府資金で借りている利子が5%台という極めて高い利子率のものについて、繰り上げ償還し今後の財政の硬直状態を防ぐ策として講じていきたい。
工事入札について、工事予定価格を公表しないで上川の業者で指名競争入札をやって、税金の使われ方を少しでも抑さえるようなやり方で行うべきでないか。	不正や癒着を防ぐ意味で、「予定価格を公表すべきだ。」と国からの指導もあったが、いま国は「この公開を止める。」という指導になってきている。しかしながら、地元業者の現状等も考えれば落札率を落としていく競争は今避けたい。今後、公共事業のあり方や一般競争入札の導入も含め考えていきたい。

定し、所管事務調査報告など報告3件のほか、平成23年度決算認定9件、財産の取得2件、条例の改正5件、補正予算7件、人事案件2件など合計28件を審議し、会期を1日残り同日閉会しました。主な内容については次のとおりです。

財産（上川町地域資源活用交流促進施設厨房備品）及び（ブルドーザ）の取得については、予定価格が700万円を超えることから、議会の議決に付すべき契約および財産の取得または処分に関する条例により議会の議決が求められるもの。

全員賛成で可決

#### 条例改正

#### 付託議案

平成23年度の一般会計ほか8会計の決算認定について

一般会計、国民健康保険事業特別会計、後期高齢者医療事業特別会計、介護保険事業特別会計、町立診療所事業特別会計、町立介護老人保健施設事業特別会計、土地区画整理事業特別会計、公共下水道事業特別会計、水道事業会計、決算認定について、決算審査特別委員会に付託されました。

#### 可決議案等

#### 財産取得

上川町乳幼児等医療費の助成に関する条例の改正については、現行小学生までを対象とした全額または一部助成を、中学校修了前までの子どもの医療費本人負担額の全額助成に拡大する改正。併せて条例の名称を「上川町子ども医療費の助成に関する条例」に改めるもので、施行月日は、平成25年1月1日とするもの。

#### 補正予算

一般会計補正予算（第4号）

（関連で8頁を参照）

全員賛成で可決



# 一般質問のその後を追跡

第2弾

## あれから、こうなった!!

議員が行った一般質問に対し、町側から前向きな答弁をいただいた場合のその後の対応について、追跡調査を今回も行いました。  
5月29日に開会した第4回町議会（定例2）において1名の議員から「中学校卒業までの医療費の無料化の実施について」一般質問が行われ、左記のとおり実施されることになりました。

### 質問

平成24年5月定例会

進行する少子化を止めるための具体策について、行政執行方針にある実効性のある子育て支援策として「中学校卒業までの医療費の無料化を」実施して頂きたい。

### 町長答弁

国において、過疎債のソフト事業の発行限度額の運用の弾力化の動きがあることから、それらを財源とすべく現在内部で調査をしているところであり、前向きに検討をしております。

### そして、こうなった!

平成24年9月定例会において条例改正として提案され、現行の小学生の入院までを対象とした全額又は一部助成を、「中学校修了前までの子どもの医療費本人負担額の全額を助成する」ことが全員賛成で可決されました。  
なお、適用については平成25年1月1日から、また同日前の医療費の助成については、従前どおりとなります。  
(関連で10頁を参照)

# 町長からの行政報告

## 上川医療センターの医師体制（1名増）について

（6月臨時会にて報告）

当町の医療サービスの提供につきましては、医療法人北海道家庭医療センターからの医師の出向契約に基づき、前年度は医師4名の派遣をいただいておりますが、本年度4月から、北海道家庭医療センターにおける研修医の確保が想定より下回ったことから、4名の派遣が困難となり、3名体制での診療となったところでございます。

当町としましては、住民サービスの向上、医師の負担軽減などの観点から、医師の1名増を図られるよう昨年からの継続的に要請を

てまいりました。

この度、北海道家庭医療センターのご配慮を賜り、中途採用の研修医を町へ派遣いただき、この8月から医師4名による診療体制が整ったところでございます。

このことを踏まえて、年度途中ではございますが、医師4名による診療体制を整備し、さらなる住民サービスの向上を目指して、安定的かつ適正な医療サービス

医療センター



スの提供に努めてまいりたいと存じます。

また、来年度以降も医師の4名体制の継続が図られますよう、北海道家庭医療センターへ引き続き要請してまいりたいと存じます。

## 平成24年度普通交付税算定結果について

（9月定例会にて報告）

年度当初の地方交付税の予算編成に当たりましては、1月に公表されます地方財政計画に基づき積算を行っているところです。

本年度の地方財政計画では、地方交付税の伸びは、対前年比0・5%増でありましたが、基礎数値の減少等により、過大見積とならぬよう対前年比2・0%減とし、当初予算では23億2千3百万円、補正第1号で5千7百万円の合計23億8千万円の普通交付税と臨時財政対策債1億8千万円を見込んだところであります。

# 意見書の提出

地球温暖化対策に関する「地方財源を確保・充実する仕組み」の構築を求める意見書  
森林・林業・木材産業施策の積極的な展開に関する意見書

提出者 笠間法考 議員

道教委の「新たな高校教育に関する指針」の見直しと地域や子どもの実態に応じた高校づくりの実現を求める意見書

けいれん性発声障害（SD）の研究・治療等の推進を求める意見書

地方財政の充実・強化を求める意見書

提出者 安部逸雄 議員

義務教育費国庫負担制度堅持・負担率1/2への復元、「30人以下学級」の実現をめざす教職員定数改善、就学保障充実など2013年度国家予算編成における教育予算確保・拡充に向けた意見書

提出者 川村都子 議員

### 主な提出先

衆議院議長、参議院議長、内閣総理大臣、内閣官房長官、総務大臣、財務大臣、文部科学大臣、厚生労働大臣、農林水産大臣、経済産業大臣、国土交通大臣、環境大臣、復興大臣、国家戦略担当大臣、内閣府特命担当大臣（経済財政政策担当、地域主権推進担当）、北海道教育委員会委員長、北海道教育委員会教育長、北海道知事、北海道議会議長

旭ヶ丘(レストラン建設予定地)



普通交付税の算定には、税等の基準財政収入額と、各費目において国勢調査による人口、行政区域名積、町道の延長及び面積、中学校数、学級数及び児童生徒数等の基礎数値により算定される基準財政需要額との差額が交付基準額となるものであります。

平成24年度の普通交付税算定事務において、需要額費目で、昨年度までの地域再生対策費、雇用対策・地域資源活用推進費が歴史的円高を踏まえ、地域経済の活性化や雇用機会の創出及び高齢者の生活支援などの住民ニーズに適切に対応した行政サービスの展開のた

め地域経済・雇用対策費と項目変更になったことに伴い、経常態様補正に人口密度が用いられ、当町の人口密度は4人で全国平均339人を大きく下回ったことが、需要額の増に反映し、交付決定額は臨時財政対策債と合わせ30億7438万6千円となり、対前年比4億2253万5千円、予算対比5億1438万6千円の増額となりました。

今後の対応については、将来の財政健全化を念頭に、実質公債費比率低減策の起債の一部繰上償還及び減債基金への積立、後年度に予定されている耐震化施設及び公共施設改修等事業財源確保のための公

共施設整備基金への積立等、十分検討をし、12月定例会において提案をさせていただきます。



# 委員会等の動き

## 総務文教

6月18日 所管事務調査  
所管各課等の平成24年度  
主要事業計画について担当  
課長等から説明を受けた  
後、質疑を行うとともに中  
高一貫教育に係る教育現場  
調査（上川高校）、駅前C団  
地建設予定地、旭ヶ丘地区  
活性化事業予定地、飲料  
水工場の現地調査を行い  
ました。

後、質疑を行うとともに医  
療センター玄関スロープ屋  
根設置工事、保健福祉セン  
ター和室改修工事、飲料水  
工場、駅前C団地建設予定  
地・南町公園整備工事・道  
路改良舗装工事2カ所の現  
地調査を行った。

6月25日 所管事務調査  
所管各課等の平成24年度  
主要事業計画について担当  
課長等から説明を受けた

## 産業福祉

6月25日 所管事務調査  
所管各課等の平成24年度  
主要事業計画について担当  
課長等から説明を受けた

保健福祉センター和室（子育て支援センター）



9月11日 所管事務調査  
(1) 上川町乳幼児等医療

費の助成に関する条例の一  
部改正について  
中学生以下までの医療費  
の助成拡大について、今年  
5月の町議会定例会におけ  
る一般質問に対する町長答  
弁及び6月25日の産業福祉  
常任委員会で説明を受けた  
中学生以下の医療費の本人  
負担額の全額助成につい  
て、過疎債については、今  
年度事業としてまだ採択に  
なっていないが、1月1  
日から全額助成制度を開始  
することとする。そのた  
め、対象者及び医療機関に  
対する事前周知など、準備  
期間が必要なことから、今  
議会に条例改正と併せて補  
正予算を上程したいとの説  
明を受けた。

昭和53年度）それぞれ事業  
認可を取り現在に至ってい  
る。浄水場施設について  
は、中央浄水場（昭和35年  
度）・層雲峡浄水場（昭和  
40年度）共に建設後約50  
年近く経過しており、老朽  
化が進んでいる。将来とも  
水の安定供給を図っていく  
ためにも、早い段階で「整  
備計画策定」をし事業の認  
可変更申請に着手すると共  
に施設整備を進める必要が  
ある。また、施設整備には  
多額の費用を要することか  
ら、有利な財源確保を図る  
ため現行の上水道ではなく  
「簡易水道への変更」を図  
るべく、昨年度より北海道  
環境推進課の指導を受けな  
がら協議を進めてきた。

の諮問について  
水道収益の減少に係る  
収益の確保について  
簡易水道事業化につ  
いて  
施設の更新および財源  
の確保について  
会計基準の見直しに伴  
う水道事業財務内容につ  
いて  
それぞれ諮問をするとの  
説明を受けた。

(2) 浄水場関連施設の更  
新に係る上川町水道事業認  
可変更申請について  
1 簡易水道への認可変  
更について  
本町の上水道事業につき  
ましては、中央浄水場（昭  
和36年度・昭和53年度）・層  
雲峡浄水場（昭和30年度・

今年8月10日の協議にお  
いて、具体的に認可変更の  
要件につき確認されたこと  
から、今議会において、認  
可変更手続きに係る「水道  
事業整備基本計画策定業務  
委託料」を補正したいとの  
説明を受けた。

えることから適正な管理を  
行うため平成25年4月満期  
となるメーター器（263  
箇所）を前倒し施工するこ  
とで地域別・年度別の調整  
を図るとの説明を受けた。

並みで、登熟（とうじゅ  
く）は平年よりやや遅めで  
ある。  
大豆は、草丈は平年並み  
で、mあたりの莢（さや）数  
はやや少ない。8月上旬の  
低温で莢が伸び悩んだが  
その後の高温で回復して  
いる。

ず、順調な生育を示して  
いる。  
牧草は、先日の牧草調査  
の結果、収量は平年比95・  
9%と低い結果である。今  
年度は干ばつ傾向に加え、  
追肥も行われなかった圃場  
（ほじょう）もあり、圃場  
間の格差が大きいとのこと  
である。

## その他の動き



駅前C団地建設予定地

(5) 平成24年産農作物の  
作況について  
9月1日現在における普  
及センター調べによる生育  
状況は、水稲につきまして  
は、はくちょうもちで平年  
より穂数が多く穂数当たり  
の籾（もみ）数と、不稔歩  
合（ふねんぶあい）は平年

馬鈴薯は、すでに収穫が  
始まっており、受け入れ時  
の総重量は10aあたり3t  
と多く、出荷収量も高い見  
込みで品質も良いが低価格  
である。  
そばについては、平年と  
比べ草丈は長く茎数も多  
い。種実（しゅじつ）は小  
粒傾向がみられ、8月30日  
から収穫が始まっているが  
見込み収量は10aあたり  
1・8俵前後とみられる。  
品質が良いが価格低迷が心  
配される。

大根は7月25日から収穫  
が始まっており、肥  
大期の少雨の影響からM規  
格が中心となっている。病  
害虫の影響は少なく品質は  
良好である。お盆頃まで価  
格安の傾向であったが現在  
回復傾向にあるので、収穫  
作業も生育・価格状況を見  
ながら急ピッチで行われて  
いる。

- 議会運営委員会  
平成24年6月26日  
第5回町議会臨時会（臨時  
3）の運営について  
同年8月6日  
第6回町議会臨時会（臨時  
4）の運営について  
同年9月13日  
第7回町議会定例会（定例  
3）の運営について

- 視察先 北広島市・くる  
るの杜（ホクレン施設）、浦  
臼町・神内ファーム21  
（詳細については、12頁議  
員研修報告に掲載）  
旭ヶ丘地区活性化事業調  
査特別委員会  
平成24年7月10日  
(1) オーベルジュ事業  
について  
(2) NPOの運営に  
ついて  
同年7月24日・視察  
視察先 富良野市・風の  
ガーデン、旭川市・上野  
ファーム  
同年8月6日  
(1) コテージの設計概  
要について

デントコーンは、生育は  
平年より3日早く推移して  
いる。生育当初は干ばつに  
よる葉がまいた状態も見ら  
れたが、その後回復し、ス  
ズ紋病の発生も認められ

アスパラは、春先の融雪  
の遅れなどで収穫開始が7  
日遅れで始まった影響で、  
出荷量は約1割少ないまま  
推移している。価格はやや  
安値で病気や虫も少し発生  
している。

以上説明を受けた後、水  
稲（越路、東雲、菊水）、大

- 議会広報特別委員会  
平成24年6月26日  
146号の編集について  
同年10月3日、17日  
147号の編集について

- 全員協議会  
平成24年7月24日  
株式会社層雲峡振興公社  
の解散について  
同年9月20日  
平成24年度教育に関する  
事務の管理及び執行の状況  
の点検及び評価報告書（平  
成23年度事業）について



# 議員研修報告

7月から8月までの間、全議員(一部特別委員会を除く)が5件の研修会に参加し研さんを深めてまいりましたので、各研修会について以下のとおり報告します。なお、報告書の担当については議員議席順に輪番となっております。

## 全道町村議会議員研修会に参加して

遠藤 和男 記

7月3日札幌市コンベンションセンターにて北海道町村議会議員研修会が開催され全議員が参加しました。「議会改革の展望と課題」と題して明治大学政治経済学部教授牛島久仁彦氏の講演があり、



国政では混乱する状況でも国民の生活は混乱していない、東日本大震災でも明らかに変わったようにそれぞれ地域によって必要とされているものは違うので、国や都道府県が決定することは可能ではあるが、住民の求めるものとはならない。地方自治体、地方議会の活動が、地域住民の要望に対応できること、基礎自治体

オール与党体制の地方議会が続くと住民から何をやっているか見えなくなっている、議会のポランテア、日当制という行革の論議を議員定数や報酬に持ち込むことが本当にいいのか、住民に身近な議会、行政のチェック体制として活動することが大切であると話されました。

次に、世界の中の日本・アジアの中の日本(外交戦略を探る)と題して外交

が見えない。地球温暖化で北極海航路が目ざされている、流通革命がおき、北海道にとって大きな可能性があり戦略的価値のある地域である。中国が日本海へ航路の確保に動いていることで、石原都知事の尖閣諸島の購入問題は、中国だけでなく米国にもメッセージを送っていることは国益を守るためである。TPPについては最もやってはいけない対応である。選挙で選ばれた議員という責務を担った方には北海道・日本がこれからも尊敬されるようにしていただきたいと話されました。

## 両常任委員会管外視察報告

(平成24年7月4日) 中里 保子 記

(1) くるるの社は、ホクレンが我が国の食料自給率が4割となる状況の中、食糧基地北海道の使命を改め

て認識し、さらなる貢献の一環として複合施設で構成する都市・農村交流施設として、2010年夏北広島

市にオープンし、森の中の牧場だった当時のサイロが2基ほとんど手をかけない姿でそびえたっていて、訪れる人々を出迎えている。体験型農場で、稲・ジャガイモ・小麦・豆などを、種まきから収穫までを体験し、育てる喜びや新鮮な味の良さを感じ、野菜が畑の栄養を吸収するように、人も心の栄養を吸収できる。



(くるるの社にて)

また調理加工と連動して、その時期の最もおいしい材料で、季節の味と手作りのおいしさを知ってもらい、メニューも手打ちうどん・パン・アイス・ケーキ・ピザなど数多く体験できる。

料を使用し、農家さんの思いを受け止めて、素材の持ち味を生かした家庭料理をバイキングスタイルで提供しており、11時のオープン前から長蛇の列で、すぐに150席が満席になっていきます。

農畜産物直売所には、毎日近郊のJAから生産者の顔が見える野菜などが届き、夕方には売り切れるようです。対面販売をしている肉コーナーも人気で、店のあちこちでは生産者がおいしい食べ方を教えている姿も見えました。レストランは直売所の材

「くるるの社」というネーミングは新聞、インターネット等で一般公募で寄せられた729件から選ばれた729件から選ばれた「来る」ことで叶う、育てる・作る・食べる・感じる・つながる場所という意味で、シンボリックの2本の木はほほえましい親子の姿で、木の中に手のひらが組み込まれ自然と人のかかわりを示し、この施設が目指す道を

感じました。(2) 神内ファーム21 国道275号線の道の駅つるぬま手前を右折すると人口2200人余りの浦臼町に、総面積600haに就農者住宅15棟、寮30室、フイルムハウス22棟、牛舎10棟などが立ち並びそこで働く50名の中には、東日本大震災の被災者も汗を流している。

はじめに、会社を創設した代表者(84歳)の思いを担当者から伝えられた。香川県の小さな村の小作農の三男坊として貧しく育ち、「いつか大農家になってやる」という強い意志が多く、遠回りを経て(克冬制夏) 冬を克服し夏を制御する一を基本コンセプトとし、日本の農地の25%を集積する北海道が、産出額11%なのは雪に閉ざされた季節が影響している。この目覚まし技



(神内ファーム21にて)

術革新の時代にハイテクを駆使した施設で南国の果物を生産することに着目し、温室にはバナナ、パパイヤ、マンゴー、ドラゴンフルーツ、パッションフルーツなど多種の果物が甘い香りを漂わせていた。しかし燃料の高騰でコストがかかりまだまだ庶民の口には入らない価格ではある。地熱も含め自然エネルギーの活用も考えているようです。また広い草原を生かして

和牛を放牧し繁殖をおこない、飼育農家との連携で良質で安価な牛肉を提供する体制づくりに取り組んでいる。農業産出額は約9兆円。その後加工、貯蔵、流通、販売のルートを経て消費者に届く時には約80兆円になる。このことから明らかに農産物を作るだけでなく、「生産、加工、販売の一貫体制」を第6次産業と名付け新しいビジネスの創出を考えていると熱く語られました。

今回の2か所の視察でこれからの農業の形態を知り、生産現場を見せ消費者に来て買ってもらう反応を確かめながらさらに新しいもの、上質なモノづくりに取り組み、地域の子供たちに体験を通して農業を知ってもらおうという姿勢が伝わってきました。上川の畑にも街の人たちの明るい声で賑わう時が来ることを期待して研修視察報告といたします。



# 全国森林環境税創設促進議員連盟定期総会について

川村 都子 記

平成24年7月12日美瑛町  
町民センターにおいて、第  
19回全国森林環境創設促進  
議員連盟定期総会が開催さ  
れました。

総会は板垣一徳会長の挨拶に始まり、議案1号の専  
決処分承認から事業・決  
算報告事業計画や役員改選  
など審議された。

議案第7号では、森林の  
公益的機能の持続的な発  
揮、森林・林業・山村対策  
の抜本的強化を図  
るための新たな税  
財源として、「全国  
森林環境税」創設を  
求めてきているな  
か、「地球温暖化対  
策のための税」が本  
年10月に導入され  
るとともに、森林吸  
収源対策などの地  
球温暖化対策に関  
する地方の財源確



保については、平成25年度  
実施に向け更に検討を進め  
るとされている。地球温暖  
化防止をより確実にするた  
めには、二酸化炭素吸収源  
として最も重要な機能を有  
する森林の整備・保全等が  
不可欠であり、市町村が推  
進するために必要な地方財  
源を確保するため平成25年  
度の税制改正に向け、地球  
温暖化対策に関する「地方  
財源を確保・充実する仕組

み」の構築を求める意見書  
が採択された。  
最後に森林環境税の創設  
を求める大会宣言が出され  
て終わりました。  
議事事項審議後、北海道  
大学院の柿澤教授による複  
雑な環境連鎖を解説する講  
義があり、オホーツクの海  
はなぜ豊かなのかからロシ  
アの森林・アムール川・オ  
ホーツクの海の繋がりなど  
改めて森林から海へと繋が  
る壮大な地球環境連鎖の不  
思議について考えさせられ  
た講演でした。

## まちの議会を 傍聴してみませんか

次の定例会は  
12月開催予定です。

問い合わせ先  
議会事務局 ☎2-1211  
(内線300、301)

## 平成24年度 議会広報研修会 報告書

森本 恭弘 記

参加者（議会広報特別  
委員会委員）小森敏弘委  
員長・川村都子副委員長・  
遠藤和男・溝口久男・森  
本恭弘  
平成24年8月23日、札幌  
で開催された議会広報研修  
会は全道各地から、106

町村、約500名の町村議  
員が参加し、札幌ポールス  
ターにおいて、議会広報を  
通じいかに住民の方々に、  
より議会に親しみを持って  
いただくかを学ぶ為の研修  
を行ってきました。  
実際に木古内町を含め道

内12町村の議会だよりを参  
照しながら、技術的なテ  
クニツクや読み手側の受け  
取り方など、非常に参考に  
なるアドバイスが多く、記  
載内容に関しても、町報と  
議会だよりの違い（町報は  
結果報告記事になるが、議  
会だよりは決定までの流れ  
を載せることができる）や  
議会だよりを通じて「まち  
づくり」の提案などの記事  
もあっていいのではない  
か、又議員自身が外に出て

取材する事も良いし、議会  
だよりに記載しない詳細は  
「ホームページなどの活用  
も有効な手段」というよう  
な内容が盛りだくさんでし  
た。何れにしても、議会活  
動を知って頂くひとつの手  
法として「議会だより」は  
重要な手段となりうる事、  
活動が活発なほど「知って  
頂きたい・考えを共有した  
い」の思いが出てくるのだ  
と感じました。この貴重な  
経験を、当町議会の広報に  
どのように反映させること  
が出来るのかを広報委員の



皆様と共に知恵を出し、町  
民のみなさまに伝えていけ  
るよう努力していきたいと  
思いました。  
最後に、雑誌「地方議会  
人」から、議会広報の現状  
について  
議会広報紙を発行して  
いる

893町村（95・8%）  
編集体制  
議員と職員 42%  
議員のみ 33%  
職員のみ 16%  
議会中継を実施  
48・4%  
ホームページを開設  
85・1%



## 上川中部5町議会議員研修会に参加して

笠間 法考 記

8月28日、29日において  
昨年引き続き今年比布  
町にて開催された。まず最  
初は上川農業試験所で米の  
育成と新しい食味評価法の  
説明を受け、北海道は毎年  
新潟県と上位を争う収穫量  
を誇るが、コシヒカリの様  
なブランド米では無く昭和  
55年に道費プロジェクトで  
優良米の早期開発試験の開

発以降「ゆきひかり」をは  
じめ「きらら397」「ほし  
のゆめ」「ななつぼし」と着  
実に食味が向上した。  
北海道における良食味米  
育成は、主としてアミロー  
ス含有率を重視した選抜を  
行ってきた結果、食味を大  
きく向上させたがタンパク  
質含有率は府県産銘柄米、  
特に「コシヒカリ」と比較  
すると未だ劣っている



すると未だ劣っている  
がアミロース含有率に  
ついては、「おぼろづ  
き」「ゆめぴかり」の粘  
りや柔らかさが非常に  
高くこれらの品種以上  
に低下させると単品と  
しての使用が難しくな  
ることから、「ななつぼ  
し」と「おぼろづき」  
の間の適度なアミロー  
ス含有率を持つことが  
重要であるなどと説明  
を受けた。

その後、遊湯びつぷに会  
場を移し、各町議会の取り  
組みと課題等について「各  
町議会代表者が発表され上  
川町からは遠藤副議長が発  
表し多くの質問、意見交換  
をしたが、各町議会共通し  
て言えるのは、やはり如何  
にして町民の負託に的確に  
応え、議会に関心を持って  
頂ける議会改革への取り組  
みについて発表され、大  
変意義のある研修会であ  
った。

お詫びと訂正  
第146号9ページの「一  
般質問のその後を追跡 あ  
れから、こうなった!!」で  
次のとおり誤りがありま  
したので訂正してお詫び  
します。

【訂正箇所】  
「住宅リフォーム制度」  
を  
(誤) 1回目の質問 平成  
23年9月定例会 (正) 平  
成22年9月定例会  
上川町産業振興条例につ  
いて  
(誤) 質問 平成22年9月  
定例会 (正) 平成23年9  
月定例会



# 議会傍聴アンケート結果報告

9月19日に開会した第7回町議会(定例3)に10名の傍聴者があり、そのうちアンケートにご協力をいただいた5名の方の回答について下表のとおり報告いたします。今後も多数の傍聴をいただき、ご意見等を参考に改善に努めて参ります。

回答者 (性別・年代・人数)	議会を傍聴してどんな感想をもちましたか			議会や議会広報に対する ご意見や気のついた点等
	良い点	悪い点	気のついた点	
男性 40～60代 4名	<p>具体的な質疑応答のやりとりで非常に良かった。</p> <p>私が初めて議会を傍聴した時の、傍聴者数は一般町民1名と新聞記者1名と私の3名と記憶しております。今回は、9名位の町民が傍聴しており、議会事務局が積極的に呼び掛けている事が浸透してきて、良い結果になってきていると思います。「上川の未来を考える会」の関係者2名が、仕事を休み傍聴されており良い事と思いました。</p> <p>普段聞くことのできない行政の詳細な情報が得られ、とても有意義な時間でした。</p>	<p>悪いのではなくて考え方の相違かと思えます。それは白寿大学の皆様です。授業の一環とした時には、会場に入れない位お越しに成りますが、授業の一環で無い時はお見えになっていないようです。生徒の皆様方は今まで何回も議会を傍聴されどの様に感じられたのでしょうか?白寿大学は教養を身に付ける場と思えます。是非、授業の一環で無くても傍聴する位の考えを持っていただきたいと思えます。</p> <p>議場が暑かったと思えます。</p>	<p>2期目の佐藤町政に対する議員さんの質問の要旨に感心をもちました。</p> <p>一般質問で、質問者は質問内容を明確にし、丁寧に聞き、答弁する側も、質問に対して完結明瞭な答弁を期待したいと思います。答弁中で、従来のやり方を変える考え方が無い様に聞こえてきました。上川高校の存続は、上川町にとって大きな問題であり、町民上げて存続に取り組む位の意気込みが欲しかったと思いました。</p> <p>白寿大学の授業の一環として、事前に議会事務局から出前講座で、議会の仕組み、議会の任務等をカリキュラムに入れて勉強されることも必要だと思いますので、白寿大学を運営しています関係者(教育委員会)に取り入れるようお願いします。</p> <p>(回答)教育委員会に伝えました。</p>	<p>今回の一般質問で、新人議員2名が質問されましたが、新人議員は大いに勉強しどしどし質問をしていただきたいと思います。2期以上の議員さんも負けないで努力していただきたいと思います。</p>
女性 40代 1名	<p>議会報告書(議会広報)に書かれていない1つの質問に対しての第2、第3答弁も聞けたこと。</p>	<p>具体的な対策のない答弁は、質問に対してズレがあった。また、答弁も結論を先に言い、理由付けは後からにした方が聞きやすいし、伝わる答弁になるようにしてほしい。</p>	<p>傍聴者も意思表示でき、同意できる意見に拍手できる独自のルールがあってもよいと思う。</p>	<p>この町の未来をどうしたいのか、教育・節電は何のためにするのか...という意識が議員さんの方に高く、町職員の意識が薄いように思う。言い訳ではなく、出来るようにお互い知恵を出す議論してほしい。</p>

